



【森林技術・支援センターとは】

森林技術・支援センター（以下「技術センター」という。）は、森林・林業に関する技術開発及びその普及・支援を目的に全国の各森林管理局に1箇所ずつ設置されており、北海道森林管理局では、北海道北部の士別市に配置されています。

【技術開発課題】

技術センターでは、北海道の森林・林業に貢献するため、施業の低コスト化・省力化等の観点から、様々な技術開発に取り組んでおり、その成果について情報発信しています。今回は、その技術開発の取組について紹介します。

技術開発課題①

「低コストを目指したトドマツ等の低密度管理の検証及び技術の確立」

人工林が本格的な利用期を迎え、主伐が増加傾向で推移する中、再造林コストの低減が重要な課題となっています。



トドマツ低密度植栽試験地

このため、植栽密度の違いによる初期成長及び植生回復の影響による下刈省略の可能性を検討する低密度植栽試験地と本数密度差による成長から将来の除間伐の密度管理体系を検討する強度除伐試験地を設定し、植栽木の成育状況を調査し、立地条件に応じた植栽密度やその管理手法の確立に取り組んでいます。

技術開発課題②

「天然更新による広葉樹資源の持続的育成手法の確立」

北海道の天然林は、林床にササが密生していることにより、後継樹の更新が阻害されている森林

が多くみられます。こうした森林では上層木が消失すると疎林化し、自然回復には長い期間を要する可能性があります。また、回復



ササが密生する広葉樹林

のために行う苗木の植栽は、コストが高くなっています。そこで、広葉樹資源を持続的に育成していくため、「地がき」と「根返し」を組み合わせ、天然力を活用した更新補助作業技術の確立に取り組んでいます。

技術開発課題③

「天然更新カンバ類の效果的保育手法の確立」

天然更新したカンバ類の保育方法は確立されていません。台風等による風倒被害の跡地にカンバ類の高密度の一斉林が発生する



シラカンバの一斉林

場合がありますが、そのまま放置すると衰退してしまうケースが見受けられます。このようなカンバ類を健全な森林に誘導するとともに、森林整備を通じて発生した木材を安定供給するため、更新初期の刈り払いや若齢期に行う効果的・実用的な除伐作業技術の確立に取り組んでいます。

【おわりに】

技術センターでは、地域の森林の特性に応じた様々な技術開発に取り組んでいます。詳しくは、技術センターのホームページで公開しています。是非ご覧ください。

